

年間第 24 主日 (マタイ 18:21-35)

わたしが憐れんでやったようにあなたも憐れむべき



前回浜脇教会でミサをした時、港まで送迎してもらった話をして、高く付かなければ良いがなあ、と言っていたところでしたが、結果的に高く付きましたか。皆様にご迷惑ご心配おかけしましたこと、責任者としてお詫びします。申し訳ありませんでした。

その代わり、9月3日の聖書と典礼、中田神父の説教が回ってきたと思います。毎週、あのような原稿を用意して説教をしております。中田神父がミサに来る時はみんなの分を用意しても良いかなと思っておりますが、何部必要なのか見極めてからにします。今日は10枚あります。

福音朗読は、次のように結んでいます。「あなたがたの一人一人が、心から兄弟を赦さないなら、わたしの天の父もあなたがたに同じようになさるであろう。」(18・35)人はときおり、どうしても赦せない出来事や赦せない事情を抱えることがあります。しかしイエスは、物語の主人の憐れみ深さをお手本にして、周りの人に憐れみ深い態度を取るよう勧めるのです。絶対に赦せないことにでも、それは当てはまります。

中田神父の母親の口癖は、「世の中に絶対は無い」これでした。小学生の頃、口酸っぱくこれを教えられてきました。当時は、何か欲しいもの、身につけたいものを念頭に、手に入らないものは無いとか、たどり着けない能力は無いとか、そのように受けとめていました。

あらためて考えると「世の中、絶対に赦せないものは無い」と当てはめることもできると思っております。母親は父親のことで絶対に赦せないことがあったと思っておりますが、それを赦してきました。「絶対に赦せない」「相手が死んでも赦せない」そう思っていることでも、「絶対というものは無いのだよ」という、人生の先輩からの教えなのだと思います。

これで皆さんが納得してくだされば、説教もここで終わりなのですが、最近「絶対に赦せない」「相手が死んでも赦せない」という事情を二つも三つも抱えている人がいることを知りました。絶対赦せない事情のうち一つは親子関係のことで、「赦せないけれども切り替えている」そう言っていました。しかし「絶対に赦せないこと」が二つも三つもあれば、それは絶対なのだろうかと思うのですが私からはとても言えません。

頭では理解していても、行動では受け入れられない。人間の限界が、どこかにあるのかも知れません。「わたしがお前を憐れんでやったように、お前も自分の仲間を憐れんでやるべきではなかったか。」(18・33)返せない借金を帳消しにしていたのです。仲間の借金を免除できないはずがありません。頭では理解できていたでしょうが、行動で示せないのです。私たち人間が父なる神への負い目を返せないから、イエスが十字架にかかって、借金を帳消しにしてくださいました。

「心から兄弟を赦す」とは、限度を付けずに実行しようとする時、初めてその域に達するのだと思います。「相手が死んでも赦せない」その限度を、どうか取り除いてほしい。「相手が死んでも赦せない」と限

全能の神よ、聖なる福音をふさわしく告げるため、わたしの心と口を清めてください。

度を付けているあなたを、イエスはそばにいて赦し、今日も生きさせてくださっているのですから。

年間第 25 主日(マタイ 20:1-16)

福音のことばによって、わたしたちが罪から清められますように。